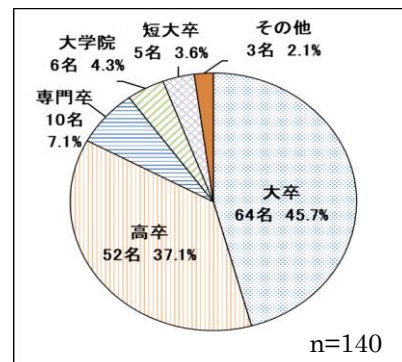


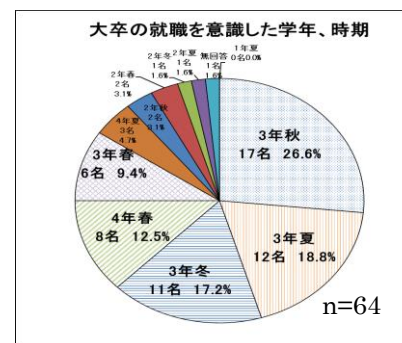
当協会が主催する「新入社員合同研修」の参加者を対象に、2012 年より「新入社員意識調査」を実施している。今回は参加者 140 名（42 社より男性 97 名、女性 43 名）のうち全員から回答を得た。（調査日：2022 年 4 月 7 日・12 日）※2021 年度を比較対象とした。

今回の参加者の構成は、「大卒」64 名(45.7%)がもっとも多く、次いで「高卒」52 名(37.1%)、「専門卒」10 名(7.1%)、「大学院」6 名(4.3%)「短大卒」5 名、その他(中途)3 名であった。

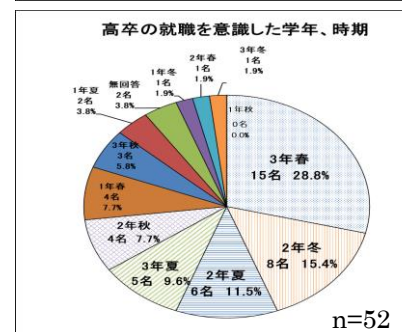


問 1. あなたはいつから就職を意識していましたか。該当する学年・時期を教えてください。

「大卒」では、「3 年秋」がもっとも多く、17 名(26.6%)、次いで「3 年夏」が 12 名(18.8%)、「3 年冬」が 11 名(17.2%)であった。



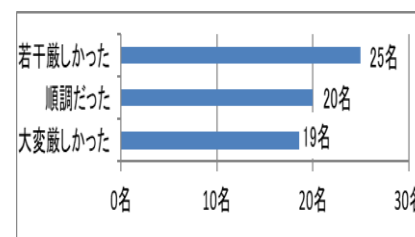
「高卒」では「3 年春」がもっとも多く、15 名(28.8%)、次いで「2 年冬」が 8 名(15.4%)、「2 年夏」が 6 名(11.5%)であった。



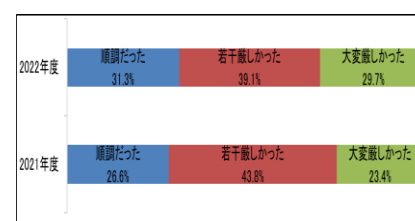
「大学院」では「1 年夏」が最も多く 4 名、「1 年春」「3 年冬」が各々 1 名ずつとなった。「専門卒」では、「1 年夏冬」が最も多く 6 名の回答があり、「短大卒」は「2 年春」2 名の回答があった。

問 2. 就職活動を振り返って（大卒）

「若干厳しかった」25 名(39.1%)と「大変厳しかった」19 名(29.7%)であった。2021 年度と比較すると「大変厳しかった」割合と「順調だった」の割合が若干増加した。

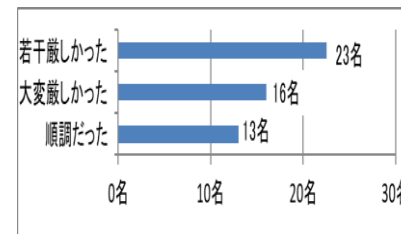


※参考：2021 年度「順調だった」26.6%
「若干厳しかった」43.8%
「大変厳しかった」23.4%

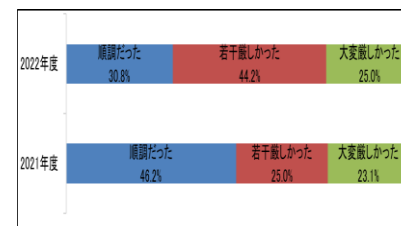


問 2. 就職活動を振り返って（高卒）

「若干厳しかった」23 名(44.2%)と「大変厳しかった」16 名(30.8%)であった。2021 年度と比較すると「順調だった」割合が減り「若干厳しかった」の割合が増加した。



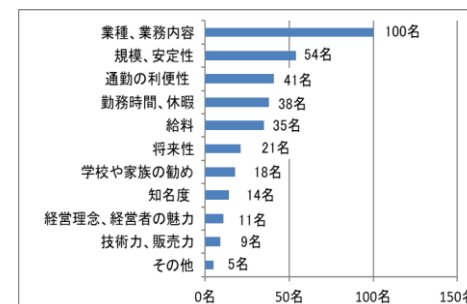
※参考：2021 年度「順調だった」46.2%
「若干厳しかった」25.0%
「大変厳しかった」23.1%



「大学院」では「順調だった」と「大変厳しかった」の割合が各々 3 名ずつとなった。「専門卒」では、「若干厳しかった」が最も多く 6 名の回答があり、「短大卒」でも「若干厳しかった」が最も多く 3 名の回答であった。

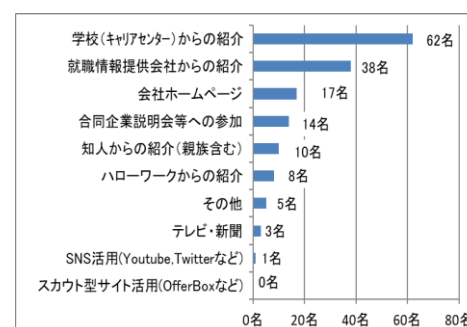
問 3. 就職先を選ぶ際に重視した点は？（3 つまで選択可）

「業種、業務内容」が 100 名と最も多く 10 年連続のトップ。以下やや差があつて「規模、安定性」54 名「通勤の利便性」41 名等が続いている。



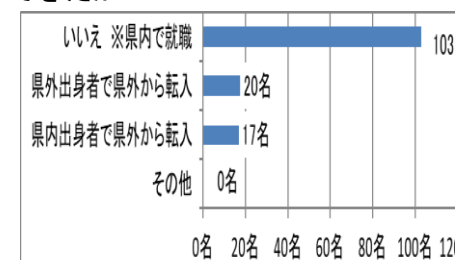
問 4. 就職先の求人情報をどのツールで知ったか

「学校からの紹介」が 62 名と最も多く、以下「就職情報提供会社からの紹介」38 名、「会社ホームページ」が 17 名と続く。ハローワークの利用が少ない結果となった。



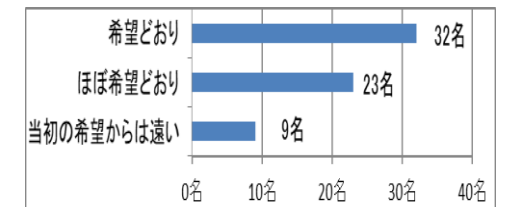
問 5. 就職にあたり、県外から転入してきたか

「いいえ」が 103 名と最も多く、U・I ターンは少ないことが伺える。

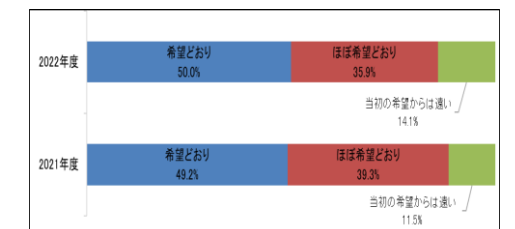


問 6. 就職した企業は？（大卒）

「希望どおり」が 32 名(50.0%)、「ほぼ希望どおり」が 23 名(35.9%)の回答であった。両者を合わせると 55 名 85.9%である。また、9 名(14.1%)が「当初の希望からは遠い」と回答し、こちらも低い割合であった。

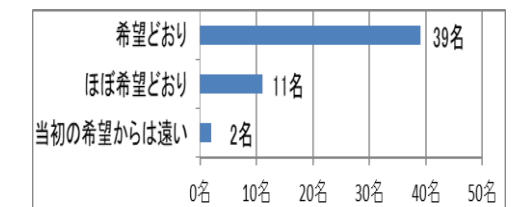


※参考：2021 年度
「希望どおり」49.2%
「ほぼ希望どおり」39.3%
「当初の希望からは遠い」11.5%

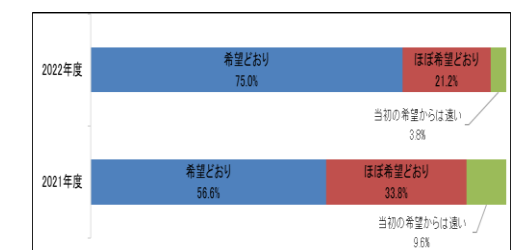


（高卒）

「希望どおり」が 39 名(75.0%)、「ほぼ希望どおり」が 11 名(21.2%)の回答であった。両者を合わせると 50 名 96.2%である。また、2 名(3.8%)が「当初の希望からは遠い」と回答があり低い割合であった。



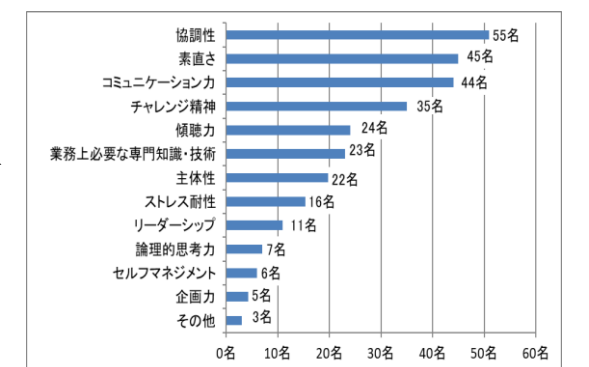
※参考：2021 年度
「希望どおり」56.6%
「ほぼ希望どおり」33.8%
「当初の希望からは遠い」9.6%



「大学院」では「希望どおり」3 名「ほぼ希望どおり」2 名の回答し、「当初の希望からは遠い」の回答は 1 名だけであった。「専門卒」でも「希望どおり」8 名、「ほぼ希望どおり」2 名の回答であった。「短大卒」でも「希望どおり」3 名、「ほぼ希望どおり」2 名の回答で「当初の希望からは遠い」の回答はなかった。

問 7. 就職活動でアピールした自分の強みは？（3 つまで選択可）（新項目）

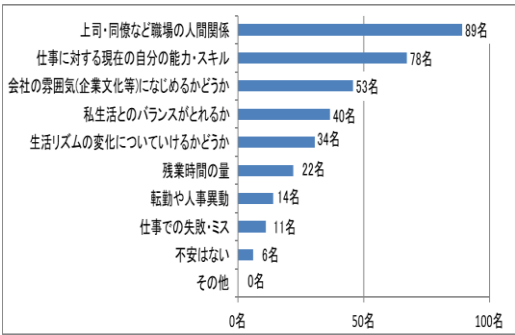
「協調性」55 名が最も多く、次に「素直さ」45 名、「コミュニケーション力」44 名、「チャレンジ精神」35 名、「傾聴力」24 名、「リーダーシップ」23 名、「主体的性」22 名、「ストレス耐性」16 名、「リサーチ力」11 名、「論理的思考力」7 名、「セルフマネジメント」8 名、「企画力」5 名、「その他」3 名が続いている。



(表面の続き)

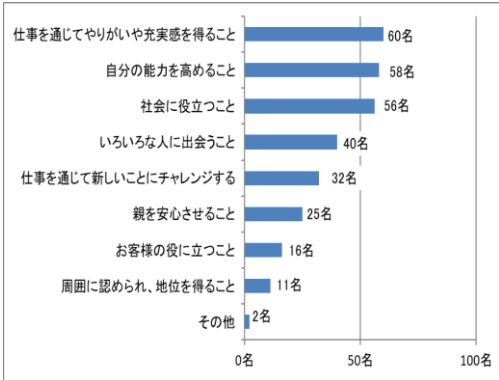
問 8. 社会人生活に対する不安(3 つまで選択可)

「上司・同僚など職場の人間関係」89 名、「仕事に対する自分の能力・スキル」78 名、「会社の雰囲気になじめるか」53 名、「会社の雰囲気になじめるか」53 名と続いている。「不安はない」は 6 名だけであった。



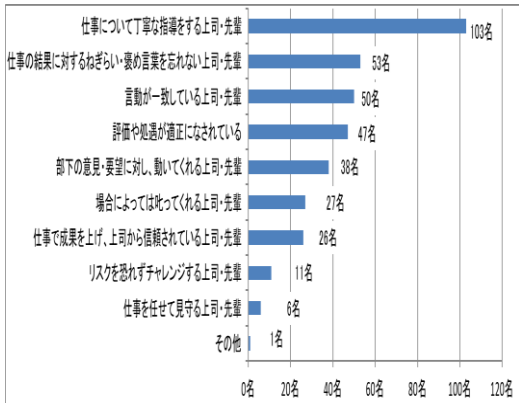
問 9. あなた自身の働く目的は？生活費を得ること以外で(3 つまで選択可)(新項目)

「仕事を通じてやりがいや充実感を得ること」が 60 名、次いで「自分の能力を高めること」58 名、「社会に役立つこと」56 名、「いろんな人に出会うこと」「チャレンジすること」などが続いている。逆に「お客様の役に立つこと」「周囲に認められ、地位を得ること」は低い割合であった。



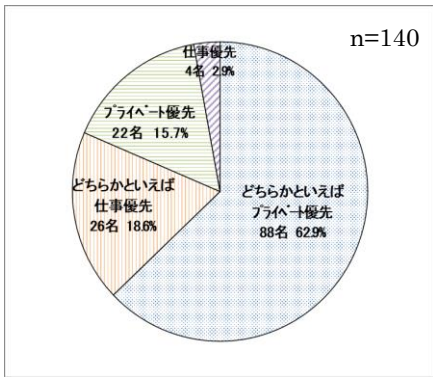
問 1 0. あなたが理想だと思うのはどのような上司や先輩ですか？(新項目)(3 つまで選択可)

「丁寧な指導をする上司・先輩」103 名、次いで「ねぎらい、褒め言葉を忘れない上司・先輩」53 名、「言動が一致している上司・先輩」50 名と続いている。



問 1 1. 仕事とプライベートについて

「どちらかといえばプライベート優先」が 88 名(62.9%)と圧倒的に多く、次いで「どちらかといえば仕事優先」26 名(18.6%)、「プライベート優先」22 名(15.7%)と続いている。合計すると 78.6%の新入社員がプライベートを優先したいと考えている。「仕事優先」と回答したのは 4 名(2.9%)であった。

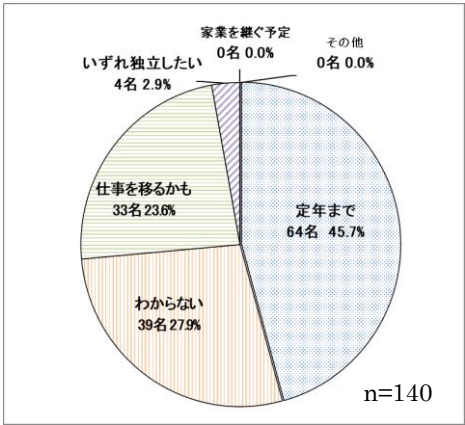


問 1 2. 今の就職先でいつまで働こうと思いますか？

「定年まで」が 64 名(45.7%)で最も多かった。一方、「わからない」39 名(27.9%)、「仕事に移るかも」33 名(23.6%)と続いている。「仕事に移るかも」、「いずれ独立したい」を合計すると 37 名(26.5%)が今の就職先を「いずれ離れる」としている。

※参考：2021 年度

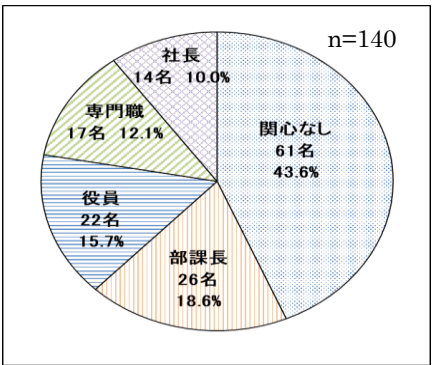
「定年まで」36.0%
「仕事に移るかも」25.7%
「いずれ独立したい」3.7%
「家業を継ぐ予定」2.9%



問 1 3. 自身の昇進について、どこまで目指しますか？

「昇進にあまり関心がない」が 61 名(43.6%)で最も多く、以下「部課長」26 名(18.6%)、「役員」22 名(15.7%)、「専門職」17 名(12.1%)と続いている。

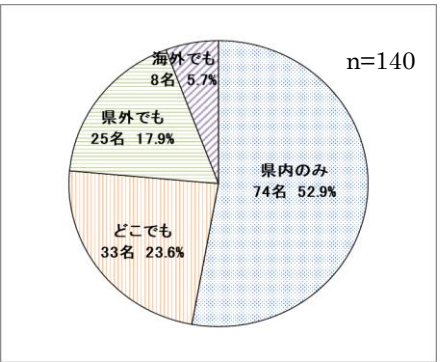
※参考：2021 年度「関心なし」48.2%



問 1 4. 働く場所について自分の考えに最も近いのは？

「富山県内でずっと働きたい」が 74 名(52.9%)で最も多く、「働く場所にはこだわらない」33 名(23.6%)、「富山県内だけでなく県外でも仕事をしてみたい」25 名(17.9%)、に続く。「機会があれば海外でも」は 8 名(5.7%)、5 年連続で 5%超であった。

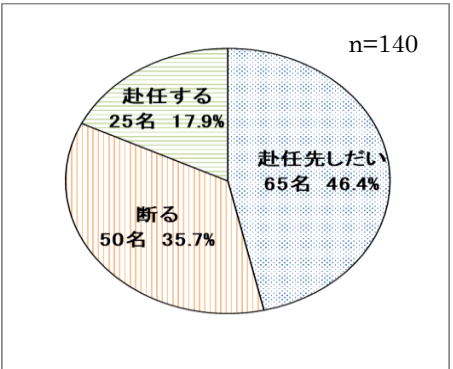
※参考：2021 年度「県内のみ」50.7%



問 1 5. 将来、あなたに海外転勤の打診があったら？

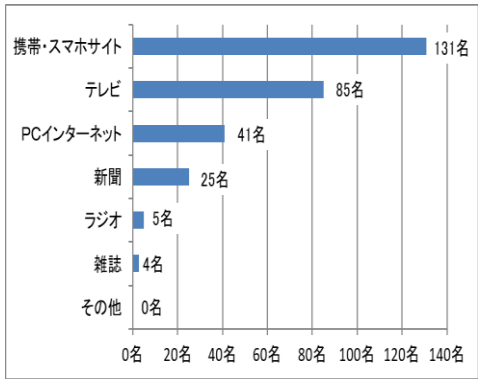
「国・地域しだいで検討する」が 65 名(46.4%)で最も多かった。「断る」は 50 名(35.7%)、「国・地域を問わず赴任する」は 25 名(17.9%)であった。

※参考：2021 年度「断る」40.0%



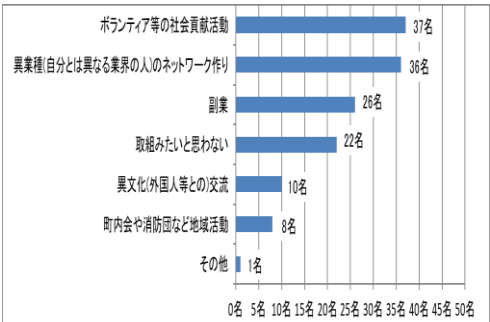
問 1 6. 日常的な情報収集メディアは？(3 つまで選択可)

「携帯・スマホサイト」が 131 名(45.0%)で、7 年連続のトップ。2012 年調査時は 4 位であったが、飛躍的に伸びている。次いで、「テレビ」85 名(29.2%)、「PC インターネット」41 名(14.1%)が続いている。紙による情報収集の比率が減少傾向にある。



問 1 7. 社外活動の関わりについて取り組んでみたいと思うものは？(1 つだけ選択可)(新項目)

「ボランティア活動の社会貢献」37 名が最も多く、次いで「異業種のネットワーク作り」36 名、「副業」26 名と続いている。一方、「取り組みたいと思わない」は 22 名であった。



<まとめ>

- ・今年度の新入社員の就活の状況は問 2 および問 6 より、就職が厳しかったものの、希望した企業へ就職できたことが伺えた。問 1 1 の「仕事を優先」する意識や、問 1 2 の「定年まで勤めたい」という意識は薄いと考えられる。
- ・求人情報のツールは問 4 より、通っている学校(キャリアセンター)からの紹介が多いこと、問 5 より県内での就職が多いことがわかった。
- ・問 8 の「社会人生活の不安」を聞いたところ、問 9 より意欲はあるが、職場の人間関係や自分の能力・スキル、会社になじめるかを不安に思っており、入社後から自信をもって働けるようにしっかりとサポートしていくことが大切である。
- ・以上より、今年度はコロナ禍であっても希望する企業への就職が叶った傾向が強く、新入社員の仕事に対する期待値は高い状況にあると考えられる。また将来の予測が困難な時代(VUCA)、依然として企業では人手不足が続いている状況下、人材流出による痛手は大きいことから、早期離職を防ぐ取り組みや人材育成が必要不可欠といえる。

以 上